

はじめに

温室効果ガス排出に伴う地球温暖化問題は、世界各国の産業、生態系に対し様々な影響を及ぼすと考えられ、近年大きな社会問題となっています。また、日本は、石油等の化石燃料の大部分を海外からの輸入に頼っており、中長期的に安定したエネルギー供給体制を構築することが大きな課題となっています。このような中で、地球温暖化防止のために、新エネルギー導入の必要性は、近年、これまでも増して高まっており、それに対する地方公共団体の役割もますます重要視されると同時に、その責務が問われています。

富良野市は北海道のほぼ中央に位置し「へそのまち」として、西に夕張山系芦別岳、東に十勝岳連峰に囲まれ、清流空知川がもたらす肥沃な大地に、農業と観光を基幹産業に田園都市として発展してきました。テレビドラマ「北の国から」・「優しい時間」・「風のガーデン」の放映などにより富良野の知名度は一躍全国区となり、年間 200 万人を超える観光客が本市を訪れ、北海道を代表する観光地へと成長を遂げてきています。

また、富良野盆地による昼夜の温度差や農業者の技術改良などにより、50 種類を超える農作物が生産されており、こうした豊富な農産物からは「ふらのワイン」・「ふらのチーズ」を代表とした加工品が生み出されています。

富良野市は、平成 13 年に「富良野市総合計画」を策定し、「快適な環境、創造性豊かな人を育む協働・感動・生き生きふらの」のスローガンのもと、市政の施策を推進しています。また平成 13 年には「富良野市環境基本計画」、「富良野市環境保全行動計画」及び「富良野市地球温暖化防止計画」を策定し、実績報告を行うなど環境問題への取り組みを実施しています。更に、富良野市ではごみの分別収集が徹底されており、ごみのリサイクル率は 90%を超え、可燃ごみを利用した「固形燃料（RDF）」を既に製造しており、循環型社会の構築に向け積極的に取り組んでいます。

これらの背景を踏まえて、新エネルギーの体系的・計画的な導入を促進し、国の地球温暖化対策やエネルギー政策に地域レベルから積極的に貢献するとともに、本市の地域振興を図っていくことを目的とし、「地域新エネルギービジョン」を策定いたしました。

豊かな地球環境を次の世代に引き継ぐためにも、市民、事業者及び行政が一体となって取り組むことが重要でありますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、ビジョン策定にあたりご尽力いただきました策定委員の皆様並びに関係機関各位に厚く感謝の意を表します。

なお、本調査は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の平成 21 年度「地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」の補助により実施しました。

平成 22 年 2 月

富良野市長 能 登 芳 昭